

2020年度桐朋学園大学入学試験 専攻作文試験問題

以下の文章を読んで、問いに答えなさい。

異文化の音楽に接触する時に、個人あるいは人間の集団が取る態度には二つが考えられます。第一は、あれは音楽ではない、として切り捨てる態度です。第二は、最初は理解できなくとも、人間が作った響きとして、そこに首尾一貫性を認めて摂取しようとする態度です。

第一の態度は、異国の音楽に対して、音階がないから音楽ではない、音程がおかしいから音楽ではない、あるいは和声がないから音楽ではない、などとしてそれを切り捨てるものです。江戸時代に日本に来た医師のシーボルトは、最初の日本滞在から帰国すると『日本の旋律』という楽譜集を出版しますが、それは日本の歌をピアノ用に編曲したものでした。彼は単旋律の日本音楽を好まなかったのです。

第二の態度は、日本だけでなく、他の多くの文化でも認められる態度です。つまり、異文化との接触から、それを積極的に受け入れて自分の文化を豊かにする態度です。ちょっと考えてみれば、現在私たちがドイツ音楽として聴いている音楽は、ドイツ人が異国の音楽に触れて、それを摂取したから出来上がったものであることに気づきます。

1. 「日本の歌をピアノ用に編曲したもの」の問題点を述べなさい。
2. 「第一の態度」と「第二の態度」を比較して、双方の長所と短所について論じなさい。
3. これまであなたが異文化の音楽に接触した時、どのような態度を取ったのか、自分の経験を基にしながら述べなさい。